

第1回豊岡市地域福祉計画推進委員会 会議録要旨

注)会議録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。

発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

○日 時 2019年10月29日(火) 13:30～15:05

○場 所 豊岡健康福祉センター 3階 第2会議室

○出席者 出席委員 11名 欠席委員 5名

○推進委員会 会議録要旨

1. 開会

2. 委員長あいさつ

「少子高齢化」、「地域」がキーワードになって、人口減少が進むなか、行政と市民が一緒になり、さまざまな分野を連携させ地域住民を支えていかなければならない新しい時代に入った。地域福祉計画についても豊岡市と社協が共に同じ目標に向かう計画になっている。

先般の関東地方での豪雨災害は豊岡市においても15年前に経験している。こういった経験を考えると今後、地域全体での支え合いの仕組みをより綿密に考えられなければならない。

今回は全体の内容が非常に広範囲であるが、計画を実施していく人たちの力を地域へどのようにつなげるかが提案になると思う。さまざまな意見をいただき、地域福祉が推進するようにしたい。

3. 報告事項

事務局

豊岡市区長連合会の役員交代に伴い、平成31年4月1日付委員の変更がありました。新委員の委嘱期間は前任者の残任期間である令和2年3月31日までです。

また、豊岡市身体障害者福祉協会からの委員推薦に伴い、令和元年6月10日付委員の変更がありました。委嘱期間は前任者の残任期間である令和2年3月31日までです。

4. 協議事項

事務局

本日は「相談支援体制の推進」の中で、事前送付資料でお示した課題を中心に意見をいただきます。最後に全体を通した意見をお受けします。

社会福祉協議会事務局

(資料1に基づいて相談支援体制の推進についての取組みを説明)

委員長

まずは、協議事項ということで「地域を含めた総合的な相談・支援体制」についての評価をお願いします。委員皆様の地域等で総合相談的なことで意見をいただきたい。サロン、福祉委員会等各々の活動のなかでの意見、地域を含めた総合相談について意見をお聞かせください。

F 委員

評価としてはよくやっていると思う。課題が明確に出ているのが成果であり、あとは解決策を見出していけばよい。

困り人の発見について、本人から手をあげ申し出ているのか、地域での情報をもとに発見されているのか、市や社協が探して把握しておられるのか等の発見のあり方をお聞きしたい。

社会福祉協議会事務局

本人から直接、相談というケースは稀である。家族からの相談であったり、地域の方々からの相談であったりがほとんどである。本人からの相談でないケースに本人と最初にどのように関わっていかにかに頭を悩ましており、支援に入る前に民生委員さんや区長さんと話し合いの機会をつくったりしている。専門職より地域の方々のほうが早期に困り人をキャッチできるので、支援の入り口においても地域の方々と専門職が一緒になって入らせていただき、そのあとも協力していただきながら見守りや支援をすることを心掛けている。

F 委員

発見された人を手厚く支援する方法はよく理解できた。隠れ困り人がいないかという大きな問題がある。いかに地域の方々で見つけだすか。家族や地域からの声が届くような支援がもう少しできないかなと考える。

K 委員

私の立場からは既に福祉サービスにつながっている、つまり専門職につながっている支援の方々が多いのでこれまでの説明は非常に分かりやすかったが、反対に言うと、そこから地域につなげにくい。福祉施設、デイサービスの利用といたら地域から敬遠されてしまう。本来、地域で生活しようと思えば日中は施設を利用していても、地域の支援が必要となる。専門職から地域にどうつながればいいのか非常に悩んでいる。

委員長

専門職から地域へのつながり、そのあたりの進行状況は。

社会福祉協議会事務局

すべての専門職が地域の支援について、しっかり頭に入っているかと言えばまだまだである。専門職だけで専門的な支援で完結してしまうケースもある。各々の分野で地域の中で支援していくという理解を深めていく学びの場を組織のなかでつくっている。地域のなかでひとりの方を支援していくことを進めていくこと必要があり、ひとつひとつのケースを丁寧に地域の誰につなげていくかをケースワーカーが考えながら対応していくが必要である。

委員長

総合相談についてはどうか。

I 委員

総合相談という範囲が広いが、民生委員として、ひきこもりは家族からの相談がないとこちらからは声をかけにくい。また、家族のなかで認知症を隠している家庭もある。

(事例に似たケースを紹介し、どうしたらいいのか分からなかったと民生委員として自らの経験を紹介。)

J 委員

地域に相談員がいるということがようやく浸透してきた。

相談のなかで以前と違って、障害者の等級判定が医者によって全く違う。同じ脳梗塞の人でも近所で手帳の交付がある人となない人がいる。補助金にも影響しており、公共のバスにも乗ることが出来ない人がいる。その時は、私自身が時間をつくり、その方を病院へ連れて行っている。福祉制度のありかた自身に大きな問題があるのではないか。身体障害だけでなく精神障害、知的障害についても、なかなか本人から言われず、私自身が足を運んで見つけ相談にのり関係機関を紹介している。全但バスも運賃が高いので補助金だけの支払いは無理。そういった中で私は努力し邁進している。

委員長

公共バスにも乗れないなど、そこから出てくる新たな問題点もあるかと思う。その議論についてはまた別のところで行いたい。

協議項目のふたつめとして「地域の中で発見した困りごとをつなぐ上での課題と、住民と専門職が困りごとを抱えた人を一緒に支える中で課題となること」について、皆様からご意見をいただきたい。事務局から補足説明があればお願いします。

社会福祉協議会事務局

地域福祉計画 35 ページ。【施策展開のための役割】をもとに説明。

委員長

日常生活の地域活動のなかで早期発見、専門職とのつながり等の問題があるかと思うが、思い当たることがあるか？

E 委員

地域で近所同士での目配りはできている。サロンもうまくいっている。コミュニティで赤ちゃんから年寄りまで参加されており、コミュニティに参加すれば世代交流が可能になっている。これまでは市から委託された通所事業も含めて順調にしていると思う。今後は訪問事業を充実させたい。社協からはもっと集いの場をつくってほしいと言われるが、日常の生活のなかでみんなが関わること、みんなが交流することが出来ることのほうが地域にとっては大事だと思う。地域としてつなぎやすい、すぐつなぐことが出来るような雰囲気をつくっていくことも大事。

O 委員

サロンを月1回やっている。参加者から毎回 100 円いただき、参加具合から健康状態等をチェック出来ている。サロンには社協職員にも参加いただき高齢者の意見等を聞いてもらっている。

また、中年会より老年クラブのほうが元気で、老年クラブを中心に地域の草刈り等をやっている。

今回、本来は区が作成すべき高齢者世帯、独居世帯、障害者世帯等のマップのつくり直しをしている。しかし、今年度は民生委員の改選時期であり、困っている。と言うのも人間関係が元に戻り、理解に時間がかかる。民生委員の交代は残念であるし、今後が心配になる。

専門職が入る場合でも区長が知らずに支援されているケースがある。区長があとから聞くのはまずい。区長を通して区長から民生委員というひとつのルートで支援に入ってもらいたいと思う。

委員長

事務局から回答あれば。

社会福祉協議会事務局

サロン等に専門職が足を運び直接住民の声を聴き、一緒に地域の支援づくりをするという地域の皆さんの目線で立場から関わっている。

また、地域に入る時はまず区長への声掛けをしている。連携の要として区長、民生委員が中枢となっており、関わりをもち、顔をつなぎながら意図していることを伝えていきたい。

C 委員

区長連合会では早期発見、専門職とのつながり等の協議はこれまで正直ない。区長の意見をたまたま会った時にお聞きするくらいである。

各個人の家庭へ顔を出せるのが区長の強み。広報等の配布時でも隣保長と一緒に回ったりする。区長としてどこまでできるか。身近な変化に気づくことが大事。遠方の近親者を名簿管理してお

り、高齢者等に何か変化があれば連絡するようにしている。行政も区長にどんどんお願いすれば区長も動く。

委員長

心強い意見ありがとうございます。豊岡市も広いので、地域によって温度差があると思うが。

H 委員

地域の人の数が少ないので、比較的つながりはあり、連携がとれている。
独居などは社協がある程度把握されているのではないか。

P 委員

但馬全体を眺めて、以前と比較すれば支えてもらう、支援していただく機関が増えたが、増えれば増えるほど誰がその機関をコントロールするのか、誰がその機関をマネジメントするのが大事になってくる。また、抱える件数が増えれば増えるほど頑張っている職員を誰がバックアップするのも心配である。

委員長

以前から比較すればかなり進んできている。そのなかで地域格差はまだある。そのあたりをこれから進めていければいいと考えている。欠席の A 委員からのコメントをいただいているので事務局から読み上げていただきたい。

社会福祉協議会事務局

A 委員のコメント代読。

相談支援体制の推進について、豊岡市の仕組みを評価いただき、今後、早期発見・早期対応への取組を強化するような仕組みづくりが必要である旨の概要を説明。

委員長

欠席の B 委員からのコメントを配布するので参照ください。他に全体を通して意見あればお願いしたい。

F 委員

今や 9070 時代であるが、長寿命化のなかでサロンのなかでも元気な 90 歳代の親はまだまだ強い。70 歳代の子供に「お前はまだ来るな！」と冗談で言っている。そんな時代がきている。

委員長

高齢化社会のなかで元気な高齢者が増えている。新しいコミュニティの推進のなかで、福祉面はまだまだ理解が少なく、地域福祉として委員の皆様は自然にコミュニティが出来てくるようにしていければと思う。

5. その他

事務局

次回は令和2年2月18日に開催します。

6. 閉会

副委員長

貴重なご意見をいただきありがとうございました。